

## 『元気で疲れ知らずの信仰』 ヘブル人への手紙12章1～3節 2018.9.16 聖日礼拝説教より

『信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。』ヘブル 12:2

信仰は、人が神に創られ愛され、すべてに意味と目的があると知った時に始まるが、やがてそれは「完成」と言う。憎しみが終わり、完全に御心が実現する日が来る。しかし今はその途中！新築の家も建築途中は住めたものではない！お互いもザラザラ、トゲトゲするが、完成図(キリストに似た者になるというクリスチャンの完成像)がある。この信仰の工事を必ずやり遂げ、私たちを素晴らしく仕上げてくださる大工・イエス様がおられる！この『イエスから目を離さないでいなさい(2節)』。世にひとつの「公同の教会」を完成されるイエス様を仰ぎ続け、挫けず、希望をもって歩み、御国を目指したい！信仰により私たちは、天地創造直後の重大な事実…この世(私やあなた)が創り主の御心から大きくずれて、救いが必要だと知る！しかし神は、人類に罪がはいつた最初から福音(キリストの十字架・贖い)を約束された(創世記 3:15)！主と共に歩むあなたは、完全に罪なく聖められる永遠の御国へつくために元気でなければならない。

**① いっさいの重荷とまわりつく罪とを捨てる(1節)**…人生は御国への旅。余分なものは持たない。まず「まわりつく罪の重荷」を捨てること。これは、具体的で思い出せる特定の罪。これが人生にまわりつく。自分にとってそれが何かを知り、素直に謝り、正直に認めて悔い改めたい！次に捨てるべき「いっさいの重荷」とは律法主義！私たちには負うべき責任や義務、神の命令がある。神は完璧を求め、私たちは負いきれない！しかし主は「わたしのところに来なさい(マタイ 11:28)」と招かれる。「救う」神と、「救われる自分」の関係が明確になれば、「互いに愛し合う」ための力も助け、知恵や忍耐を、神からいただくことができる。人生の悲しみや苦しみ、不安も怒りも、不治の病も障害も…それを負うあなた自身を主の懷に投げ出し委ねることで慰めは癒しをいただく！

**② イエス様から目を離さないで、走りぬく(2節)**…イエスから目を離さないとは、先の見えない生涯を、御言葉によって見通しをつけること。順境の日は感謝し、逆境の日は信頼する。

★それぞれに与えられた自分の生涯に、ずっと伴走してくださるイエス様がおられる。倒れても、躓いても、すぐに手を伸ばし、「信仰はどうした」と励ましつつ、「レッツゴー」とゴールを指差して導かれる！この方から目を離すことなく、日々力と癒しをいただき、疲れず元気に御国を目指して走り切らせていただこう！ピリピ 3:12～14